

## 都市緑化よこはまフェア 早瀬川・老馬谷ガーデン(HRG) 報告書

環境学部環境創生学科 2年生 都市緑化研究会

佐藤 啓太

### 1. 活動参加のきっかけ

私は「LANDSCAPE DESIGN」という、マルモ出版(株)から出版されているランドスケープ専門雑誌を、私が高校生だった頃の化学の先生からご紹介して頂き、愛読していた。それを見ていた高校生の私は、なんとなくその空間が人で溢れていて、なんとなく居心地が良さそうで、なんとなく自然豊かで、なんとなく憧れを抱いていた。大学受験を真剣に考え始めた私は、ランドスケープに関する研究ができる大学を一通り調べ上げ、受験に臨んだ。そして、現在は東京都市大学環境学部環境創生学科に入学している。

大学に慣れ始めてきた夏頃、私は座学だけではなく、実際に本物の現場で活動し、知識を得たいと感じていた。しかし、何から手をつければ良いか分からず、混迷していた。そんな時に、この活動の存在を知り、高校生の頃に憧れていた、人の賑わいが溢れる、自然豊かな居心地の良い空間づくりができるのではないかと思い、活動に参加させていただいた。

### 2. 活動での喜びと苦悩

現場を視察し、お互いがアイデアを共有し、意見がまとまってきた段階では、私だけでなく、おそらく他のメンバーも、「楽しみ」という感情が大きかったと思う。こんな空間ができたらすごいと、誰もが思っていたと思う。しかし、実際に作業が始まってみると、炎天下の中、土を掘り起こしたり、水をくみ上げたり、緑化ユニットを何十枚と運んだり、力仕事が多かった。そして、その苦しい作業を共に共有している大学の先輩、それまでは話したことのない同級生、教授、地域

住民、NPO、他大学、行政の方々とコミュニケーションを取り合い、いつのまにか作業の楽しみが楽しみに変わっていった。これこそが、「現場に学ぶ」ということだと実感した。

### 3. 個人エリアについて

都市緑化よこはまフェアには、「ガーデンベア」というイメージキャラクターが存在する。頭にはカラフルな花が咲き、ボディは芝生のような緑色をしたクマのキャラクターである。私は、そのキャラクターをモチーフに、何かをつくりたいと考えた。

一方で、HRGは水道が通っていない。そのため、必然的にガーデンの植物は、極力乾燥に強い植物が好ましい。実際、ガーデンには多肉植物やワイルドフラワー、街路樹に使われている植物などが多く植えられている。以上の条件を踏まえて私は、「ガーデンベアをモチーフとしたポーチュラカ(*Portulaca*)とダイコンドラ(*Dichondra*)によるグランドカバー」という題で作品をつくらうと考えた。

### 4. 感想

私は、高校生の頃に憧れていた空間づくりをしたくて、この活動に参加した。しかし、「空間をつくる」だけで終わってはいけないということが分かった。空間をつくる過程で様々な人と出会い、様々な困難を経て、様々な喜びを得る。そして、その空間が地域の付加価値を生み出し、持続性のある新たなコミュニティの形成、良質な環境創生など、完成する達成感より多くの喜びを知り得た。

高校生の頃の私に教えてあげたい。